

# NEDO先導研究プログラムにおける 成果把握・要因分析調査（2023年度）

## 公募説明会

2023年9月27日

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

新領域・ムーンショット部 フロンティアグループ

# 先導研究プログラム事業概要

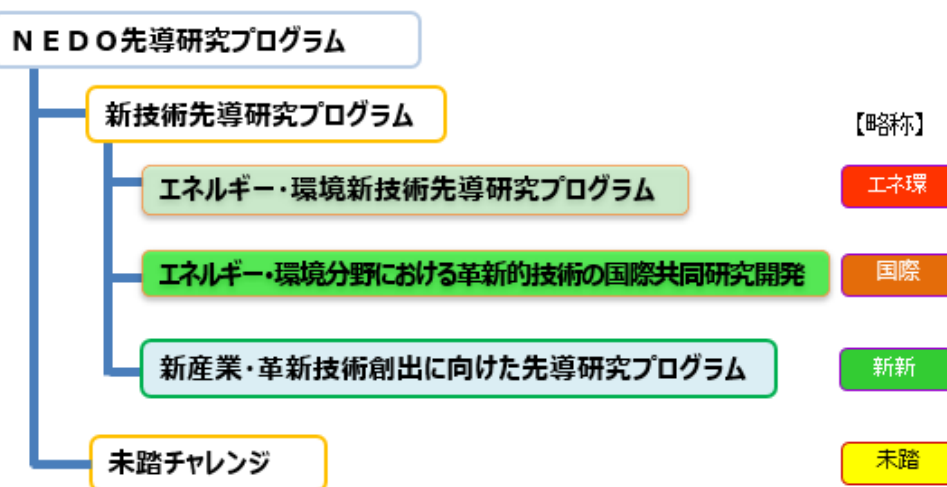


事業期間：2014年度～、予算額：51.7億円（2023年度）

持続的かつ強靱な社会・経済構造の構築に対応するためには、革新的な技術の開発が必要となっています。このため、2030年頃の実用化を目指す国家プロジェクトの推進に加え、「未来も技術で勝ち続ける国」を目指して今のうちから2040年以降を見据えた「技術の原石」を発掘し、将来の国際競争力を有する有望な産業技術の芽を育成していくことが重要となります。

近年の厳しい競争環境の中、研究開発期間は成果を重視し短期化しており、事業化まで10年以上を要する研究開発は困難な状況にあり、こうした状況を放置した場合、将来の産業競争力強化や新産業創出を目指す国家プロジェクトに繋がる新技術が枯渇していく恐れがあります。

そこで、本制度は、脱炭素社会の実現や新産業の創出に向けて、2040年以降（先導研究開始から15年以上先）に実用化・社会実装が期待される要素技術を発掘・育成し、国家プロジェクトを含む産学連携体制による共同研究等につなげていくことを目的とします。



# 採択テーマ実績



## 採択テーマ数 (2023年9月現在)

採択年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	合計
工ネ環	36	30	12	32	27	44	50	28	21	16	296
国際	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5
新新	-	-	-	-	12	6	5	4	3	9	39
マテ先	-	-	-	-	-	-	-	8	3	-	11
未踏	-	-	-	8	4	9	8	7	8	7	51
											402

# 本調査事業の概要（2022年実績）



## (1) 事前検討

先導研究プログラムの技術的成果による経済的・社会的な波及事例・波及効果（CO2 排出削減効果を含む）及び民間投資誘発効果を把握する手法について検討した。

←

## (2) アンケート調査

2022年9月時点で終了している先導研究プログラムにおける252テーマの代表機関を対象に、現在の実施状況及び今後の進展等に関してアンケート調査への協力を依頼し、212テーマより回答を得て結果のとりまとめを行った。

←

## (3) ヒアリング調査

アンケート調査の結果をもとに、先導研究プログラム終了後に進展があるもの、売上向上・経費削減効果や省エネ効果/CO2削減効果などを定量的に回答しているものなどの成功事例と、中止・中断に至った縮小事例、計20テーマを選択し、ヒアリング調査を実施した。

←

## (4) 事例集の内容

成功事例18テーマについて、ヒアリング調査により把握した詳細な内容をもとに、事例集を作成した。

←

## (5) 制度等についての改善提案

アンケート調査及びヒアリング調査の結果をもとに、現在の制度に関する課題等を整理するとともに、より効果的な事業運営の遂行につなげるための改善案をとりまとめた。

←

## (6) 報告書作成

## スケジュール（予定）

### <公募決定>

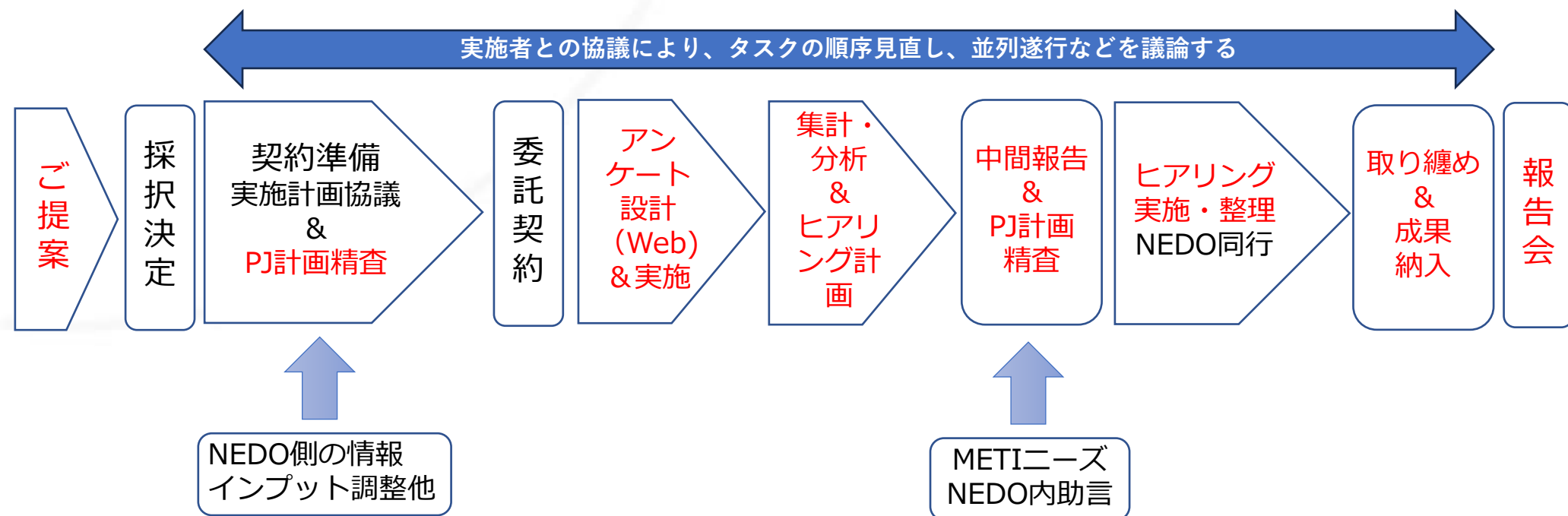
- 2023年9月20日（水） 公募開始
- 2023年9月27日（水） 公募説明会（本日）
- 2023年9月29日（金） お問合せ期限 12時
- 2023年10月4日（水） 12時 公募〆切
- 2023年10月上旬 採択審査

### <調査事業>

- 2023年10月中旬 調査全体の実行計画の詳細協議
- 2024年3月31日（日） 成果報告書提出
- 2024年3月31日（日） 調査事業終了

# 想定するタスクの流れ

- 限定するものではないが、以下にNEDOで想定しているタスクの流れを示す（朱記が実施者中心のタスク）
- 仕様書で規定するの要件は、以下のような内容（詳細は、仕様書による）
  - 調査期間中は、定期的にNEDOと打ち合わせを行い、進捗状況をNEDOに報告すること
  - 採択通知後、2週間をめぐりに実施計画書を提出すること
  - 12月中をめぐりに中間報告を行うこと
  - 最終報告書については、提出期限を、2024年3月31日とする
  - 調査事業成果報告会において、成果報告を依頼する
  - 仕様書に定めなき事項については、NEDOと実施者が協議の上で決定する



1. 目的と概要
  - 1.1. 事業目的
  - 1.2. 事業概要
  - 1.3. 調査方法（アンケート調査、ヒアリング調査）
2. 本プログラム終了後の状況
  - 2.1. 先導研究の実施前後での進展状況  
(ex.上市に向けたプロセス進捗、体制・資金の強化・拡大、NEDO事業区分別分析)
  - 2.2. 国家プロジェクト化等の状況
3. 本プログラムを通じた成果とその要因分析
  - 3.1. 成功事例の整理
  - 3.2. 波及事例・波及効果の分析
  - 3.3. その他考察
4. 本プログラムの意義
  - 4.1. 実施者が感じた本プログラムの意義
  - 4.2. 本プログラムに対する要望等
5. 本調査のまとめとプログラムの運営向上に向けて
  - 5.1. 本調査のまとめ
  - 5.2. 今後のプログラム運営向上に向けての整理

# 別添資料イメージ

## 資料1 事前検討57

資料1.1 アンケート基本設計（効率化&定点観測）・ヒアリング計画

資料1.2 民間投資誘発効果の把握手法の検討

## 資料2 アンケート調査票

## 資料3 アンケート調査 集計結果

資料3.1 アンケート調査の実施概要

資料3.2 アンケート調査結果

## 資料4 ヒアリング調査【非公開】

資料4.1. 調査概要

資料4.2. 調査結果

## 資料5 事例集【非公開】

## 資料6 本調査の対象テーマ一覧

## 資料7 後継プロジェクト一覧【非公開】



# アンケート概要（例）



- ・ 実施期間：2022年12月15日（木）～2023年1月16日（月）
- ・ 実施方法：Webアンケート（※対象者に電子メールで回答専用URLを案内）
- ・ 対象者：2022年9月時点で終了済みの採択テーマの代表機関
- ・ 対象テーマ数：252件（※複数回採択者を含む）
- ・ 調査内容：「資料2 アンケート調査票」を参照
- ・ 回答者数：212件
- ・ 回収率：84.1%（参考：昨年度調査は87.0%）
- ・ 回答督促等：
  - ① 1月6日時点において、回答専用URL未アクセス者に対して、督促の一斉メールを送付
  - ② 1月13日時点において、回答専用URL未アクセス者に対して、個別に督促とExcelの回答用紙（1月20日期限）をメールで送付
  - ③ 1月16日時点において、未回答者のうち「FY2021調査の回答者」に一部電話連絡
  - ④ 1月23日時点において、未回答者のうち③でつながらなかった対象者に再度Excelの回答用紙（昨年度回答入力済）をメール送付（1月30日期限）

# ヒアリング概要（例）

- 実施期間：2023年2月～2023年3月
- 対象テーマ数：20件
- 対象選定方法：アンケート調査結果を基にNEDO担当者と相談の上決定
- 調査内容：
  - （成功事例）
  - ① 実施前：先導研究のテーマを立ち上げたキッカケや先導研究参加の目的、応募に向けた体制構築等の準備について
  - ② 実施中：先導研究を通じた技術の実現性や市場の存在を検証、体制拡充等の取組みについて、及び本プログラムの実施中に終了後の進捗に結び付く要因
  - ③ 終了時：国プロ化に向けた研究開発課題やロードマップの明確化など、次フェーズを意識したアウトプットについて
  - ④ 終了後：国プロの予算化／採択に向けた関係者への相談や折衝等、先導研究後の取組みについて、及び、本プログラムに参加して特に強調できる意義、副次的効果
  - ⑤ 波及効果・民間投資誘発効果：効果の有無と程度について
  - ⑥ ご意見、伝えたい事項等

←

（中止・中断事例）

- ① 実施前：先導研究のテーマを立ち上げたキッカケや先導研究参加の目的、応募に向けた体制構築等の準備について
- ② 終了後：中止・中断している理由について
- ③ ご意見、伝えたい事項等

←

# 事例のサンプル



## Case ○ RFI提案からの採択で産学連携による国プロ化に進展した事例

テーマ名		採択	○○年度
実施機関		期間	○ヶ月

### 研究開発の背景と概要

### プロジェクト成功のポイント

Point 1

Point 2

Point 3

### 先導研究を通じたステップアップ

実施前		現在
研究段階	➡	研究段階
産学連携（小規模）	➡	産学連携（大規模）
科研費	➡	公的資金（国プロ）

- 実施前
- 実施中
- 現在

### 見込まれる波及効果

波及効果	
------	--

